

高知市議会だより

会派の意見

9月定例会を振り返って

自由民主党・中道の会

今定例会では、「子ども・子育て支援の充実」、「安全・安心なまちづくりの推進」、「社会福祉等の充実」など、約1億9千万円の一般会計補正予算議案などが提出されました。

子ども・子育て支援の充実では、不登校生徒の多様な教育機会の確保に向けて、学びの多様化学校を

令和8年4月から潮江市民図書館

4階に設置することや、安全・安心なまちづくりの推進では、南海トラフ地震の発生時に津波の直撃

を受ける恐れがある東消防署三里

ト出張所移転のための建設工事に係る継続費設定等が提案されました。

桑名市長からの提案理由説明では、来年度の当初予算編成で想定される収支不足に対応するため、

5億円の一般財源の削減を短期目標として、事務事業の見直しを進めることが示されました。

また、物価高騰に伴う施設維持管理費や人件費の上昇等を踏まえ、より適正な受益者負担の見直しを行うため、ふれあいセンター等の

市営施設の使用料や各種証明手数料等を定める条例議案40件の改正が行われました。

個人質問には5人が登壇し、

「学びの多様化学校」、「行財政改革」、「教員の働き方改革」、「犯罪被害者支援」、「繁華街での悪質な客引き対策」など、多く

の市政課題や取り組みに對して執行部に意見を述べた上で、会派と決算認定議案を含む64議案について、提言も含め賛成の立場で討論を行い、賛成多数で可決しました。

市民クラブ

市民生活を支える政策を求める討論

9月補正予算に盛り込まれた「学びの多様化学校」事業費は、不登校児童生徒への柔軟な学習機会を保障する先進的な取り組みであり、教育環境の整備を評価します。併せて、アスパルこうちのグランウンド活用が引き続き確保されるよう強く要望しました。

使用料・手数料の見直しは、受益と負担の公平性を回復し、持続可能な財政運営に不可欠です。

市民目線での公明党の対応

桑名市長は9月定例会の市長説明では、令和8年度当初予算編成に向けた財源確保が喫緊の課題で

政体質の転換を迫りました。

市民生活を支える政策を評価しつつ、課題も明確に指摘した上で、賛成討論を行いました。

日本共産党

市民合意なき使用料・手数料の見直しに反対

補正予算では、不登校の子どもたちが安心して学べる場として

「学びの多様化学校」を来年4月に開設するための予算が盛り込まれました。不十分さはあるものの、学校に行きづらい子どもの学びの場の選択肢の確保が急務と考え、賛成しました。

決算は、子どもの医療費助成の拡充をはじめ市民要望の実現が取り入れられたもので賛成しました。

市民負担増を含む施設使用料・手数料の見直しについては、利用者アンケートの実施や丁寧な説明、納得を得るための議論が必要と考え、決定の押しつけでなく継続審査を求める動議を提出しましたが、否決となり、原案に反対しました。

公明党

さきがけ高知

路面電車を桂浜まで延伸する構想を紹介。AIに聞くと「交通インフラの強化と観光振興を両立させる野心的かつ実現可能性の高いプラン」。今すぐとは言わないが、議論を始める価値はある。

来年度潮江中学校の分教室として、新たな学びの場が開設されます。不登校の子どもたちには朗報ですが、これはあくまでも便宜的。不登校の根本原因の解決が何よりも重要。改めて考えさせられます。

参政党

あり、使用料・手数料の改定などを提案した。

公明党は、使用料の改定では、縮小や指定管理者への影響、施設の利用低下が危惧されることから、使用料を1・25倍に引き上げることには賛成できない。

また高知市で初の「学びの多様化学校・分教室型」設置に当たり、公明党として不登校生徒のための特例校設置に関して反対するものではなく、設置予定場所の周辺環境が今後激変する可能性がある中、時期尚早ではないかと考える。